

KIRIN



ハーモニア

HARMONIA

キリンホールディングス株式会社

第176期
中間株主通信

2014年1月1日から2014年6月30日まで

グループの持続的な成長に向けて 強いブランドの育成に取り組んでいます。



代表取締役社長
三宅 占二

株主の皆様には、平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

キリングroupは、**自然と人を見つめるものづくりで、「食と健康」の新たなよるこびを広げていく**という経営理念のもと、2012年に長期経営構想「キリン・グループ・ビジョン2021」(略称:KV2021)を掲げました。その最初のステージである「キリングroup2013年-2015年中期経営計画」では、「ブランドを基軸とした経営」を展開し、日本総合飲料事業を着実に再成長軌道に乗せるとともに、海外総合飲料事業で成果を創出してグループの成長を牽引することを目指しています。

中期経営計画の2年目にあたる2014年は、戦略的な資源配分により、強い商品ブランドの育成やイノベーションによる新しい価値の創造に注力するとともに、コスト競争力の強化に取り組んでいます。

キリングroup長期経営構想 「キリン・グループ・ビジョン2021」(2012年10月15日発表)

- お客様本位・品質本位に基づく価値作りで、人と人との絆を深める
- 多様な人々が活き活きと働き、地域社会と共に発展し、自然環境を守り育てる企業グループとなる
- 「食と健康」の分野でグローバルな事業展開を行い、それぞれの地域に根ざした自律的な成長を遂げる

》世界に広がるKIRINグループ

キリングループは、日本、アジア、オセアニア、ブラジルをはじめとする各エリアにおいて、「食と健康」の領域でグローバルに事業を展開しています。「熱意と誠意“Passion and Integrity”」をグループ共通の価値観として、新しいよこびにつながる一歩進んだ「食と健康」のスタイルを提案し、これからも世界の人々の健康・楽しさ・快適さに貢献していきます。



2014年第2四半期(2014年1月1日～6月30日)の業績についてご報告いたします。

日本総合飲料では 強い商品ブランドの育成に注力

日本総合飲料事業では、中期経営計画において、グループの中核事業として持続的な再成長軌道に乗せることを目指しています。当第2四半期は消費増税に伴う環境変化に対応しながら、戦略的な資源配分のもと、強い商品ブランドの育成とお客様にとっての新しい価値の創造に一貫して取り組みました。

酒類事業では、旗艦ブランドである「キリン一番搾り生ビール」の麦汁ろ過の工程で一番初めに流れ出る麦汁のみを使用する独自製法へのこだわりやその贅沢さを、お客様との



キリン一番搾りガーデン
Brewery Experience

一番搾り プレミアム



キリン
やさしさ生茶
カフェインゼロ



Château Mercian Tokyo Guest Bar

キリン
世界のKitchenから
Sparkling Water

あらゆる接点で訴求しました。また、日本ワイン「シャトー・メルシャン」ブランドでは、その魅力を気軽に体験していたくコンセプトショップを開設しました。清涼飲料事業では「キリン 午後の紅茶」ブランドを強化するとともに、新商品の発売など新たな価値提案を行いました。

競争力のさらなる強化に向けて、キリンビール・メルシャン・キリンビバレッジ3社の本社物流機能を集約したほか、キリンビールとキリンビバレッジの製造拠点を統合した総合飲料工場を新たに稼働させました。

海外総合飲料では 地域と市場に根ざした成長戦略を推進

海外総合飲料事業では、中期経営計画において、オセアニア、ブラジル、東南アジアの各地域統括会社が自律的な経営を推進し、成果を創出することを目指しています。

オセアニアでは、基盤ブランド強化を引き続き進め、縮小が続く豪州ビール市場で主力ブランドが前年並みの販売を維持したほか、輸入プレミアムビール、クラフトビールなどの成長カテゴリーの販売が伸長しました。飲料事業では乳飲料の販売が堅調だったものの、全体の販売数量は前年を下回りました。



(左) フォーエックス・ゴールド
(中) ジェームス・スクワイア
(右) デア



強いブランドポートフォリオの構築を進めるブラジルでは、緩やかな経済成長を背景に市場競争が激化し、ビールの販売は前年を下回りました。一方、清涼飲料では炭酸飲料の基盤ブランドを強化するとともに、日本の知見を活用した食物繊維入り炭酸飲料の販売エリアを拡大しました。



(左) スキン
(中) キリン フィブズ ガラナ
(右) キリン フィブズ コーラ

医薬・バイオケミカル事業

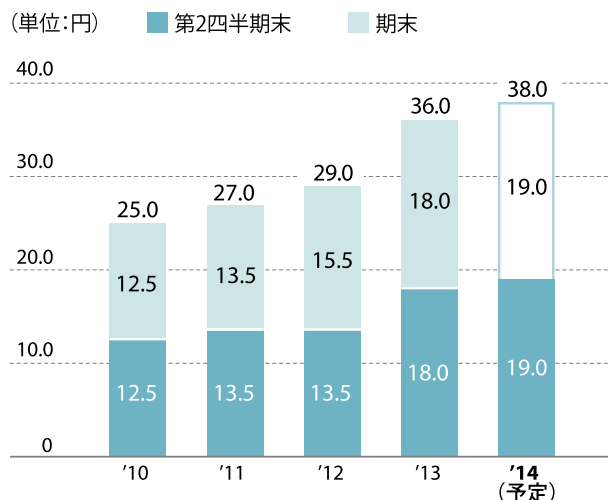
では、中期経営計画において、重点領域における製品および開発品のパイプラインを拡充し、各領域での競争優位性を加速することを目指しています。



ネスビ

当第2四半期においては、医薬事業では主要製品の販売は順調に伸張しましたが、4月の薬価基準引き下げによる影響を受けました。バイオケミカル事業は国内・海外とも堅調に推移しました。

1株当たり配当金



その他事業では、キリン協和フーズ社が連結対象から外れたことにより、売上高、営業利益ともに前年を下回りました。

これらの結果、海外総合飲料事業は、前年同期比で増収増益となりましたが、日本総合飲料事業での販売数量の減少や、医薬事業の薬価基準引き下げの影響などにより、当第2四半期における連結売上高および連結営業利益は、ともに前年同期を下回りました。連結経常利益も減少し、連結四半期純利益は投資有価証券売却益等を計上した前年同期に比べ大幅に減少しました。

なお、第2四半期までの事業進捗を踏まえ、通期の業績予想を修正しています。

株主還元については、当期の配当金は中期経営計画で掲げた連結配当性向30%を目途とし、年間38円を予定しています。また、株主還元のさらなる充実を図るため、約1,599万株(総額約197億円)の自己株式を5月末までに取得しました。

株主・投資家の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

キリンホールディングス株式会社
代表取締役社長

三宅 占二

連結業績ハイライト(当第2四半期)

» 売上高

1兆562億円

(前年同期比3.6%減)

通期予想 2兆,2,600億円^{※1} (前期比0.2%増)

» 営業利益

502億円

(前年同期比16.8%減)

通期予想 1,400億円 (前期比2.0%減)

» 経常利益

451億円

(前年同期比19.0%減)

通期予想 1,220億円 (前期比7.7%減)

» 四半期純利益

140億円

(前年同期比76.5%減)

通期予想 490億円 (前期比42.8%減)

» EBITDA^{※2}

1,265億円

(前年同期比8.9%減)

通期予想 2,970億円^{※1} (前期比1.5%減)

» 1株当たり利益^{※2}

54円

(前年同期比5.9%増)

通期予想 131円^{※1} (前期比7.4%増)

※1 各事業の進捗を加味した結果、通期業績予想を修正しています(8月6日に開示)。

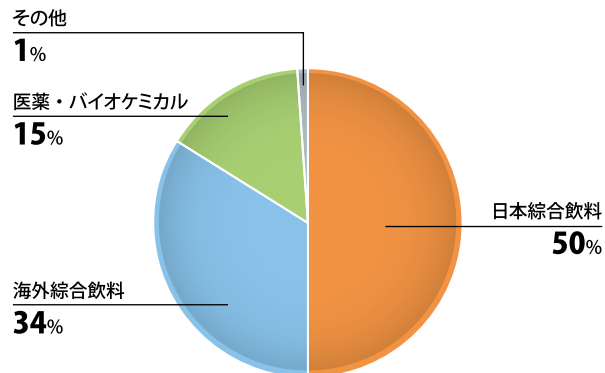
※2 特別損益等の非経常項目を除外し、より実質的な収益力を反映させるための調整をしています。

【用語解説】EBITDA: Earnings Before Interest, Taxes, Depreciation and Amortization

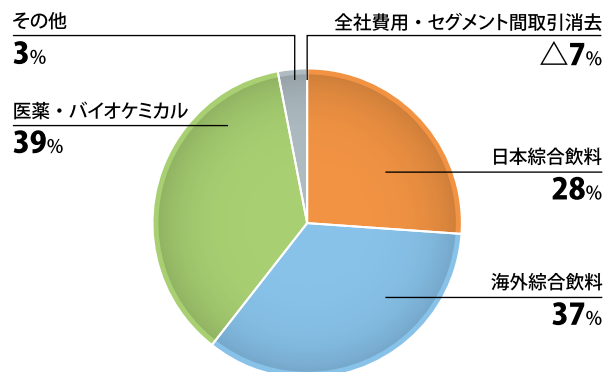
税引き前利益に支払い利息と減価償却費を加算したもので、グローバル企業における金利や税率、会計基準等の違いによる企業の見かけ上の利益格差を抑えるための指標として用いられ、広義のキャッシュ・フローを意味します。

セグメント別概況(当第2四半期)

■ セグメント別売上高構成比



■ セグメント別営業利益構成比



日本総合飲料事業



- ▶ RTD※、ワイン、清涼飲料の販売数量が増加
- ▶ 新ジャンルを中心にビール類の販売数量減少の影響が大きく、日本総合飲料事業全体では減収減益

※ RTD: Ready to Drinkの略。栓を開けてそのまま飲める低アルコール飲料。

売上高 | 5,305 億円 前年同期比 1.5%減

通期予想 | 1兆1,890億円(前期比0.7%増)

営業利益 | 139 億円 前年同期比 18.1%減

通期予想 | 615億円(前期比1.0%減)

海外総合飲料事業



- ▶ オセアニアでは酒類事業が牽引し増収増益
- ▶ ブラジルでは販売数量が減少したものの、前年の値上げ実施効果で増収増益
- ▶ 海外総合飲料事業全体では増収増益

売上高 | **3,566** 億円 前年同期比 **2.7%** 増

通期予想 | 7,200 億円 (前期比5.1%増)

営業利益 | **185** 億円 前年同期比 **13.2%** 増

通期予想 | 350 億円 (前期比14.1%増)

医薬・バイオケミカル事業



- ▶ 医薬事業は薬価改定の影響で減収減益、バイオケミカル事業は増収増益
- ▶ 医薬・バイオケミカル事業全体では減収減益

売上高 | **1,575** 億円 前年同期比 **4.6%** 減

通期予想 | 3,280 億円 (前期比1.0%減)

営業利益 | **196** 億円 前年同期比 **30.8%** 減

通期予想 | 480 億円 (前期比11.7%減)

その他事業

売上高 | **115** 億円 前年同期比 **74.4%** 減

通期予想 | 230 億円 (前期比60.2%減)

営業利益 | **14** 億円 前年同期比 **25.6%** 減

通期予想 | 30 億円 (前期比20.0%減)

ビールにワクワクする未来を

麒麟のクラフトビールプロジェクト 「SPRING VALLEY BREWERY」始動

スプリング バレー ブルワリー

ビールをもっと魅力的な飲みものにしていく新たな取り組みとして、「SPRING VALLEY BREWERY」プロジェクトがスタートしました。

「ビール通を唸らせ、ビールが苦手な人もはじめての出会いに感動するビール」をコンセプトに、クラフトビールの新ブランド「SPRING VALLEY BREWERY」を立ち上げました。上質な苦み、甘味、酸味、香り、コクの究極のバランスを実現した新次元のクラフトビールを多彩なラインナップで提案し、ブルワリー（醸造所）と店舗を併設した体験型施設（2015年春オープン）と麒麟社が運営するオンラインショップ「DRINX（ドリンクス）」を通じて、今までにないビール体験をお客様に提供していきます。

その一環として、7月より、オンラインショップ「DRINX」にて、新ブランドのプロトタイプ品（試作品）を数量限定で販売しています*。試作品に対してお客様から感想をいただき、お客様とブリュワー（つくり手）が交流しながらビールを完成させ、2015年春、オンラインショップ「DRINX」とブルワリー併設店舗でお披露目します。

未体験のビールを続々と生み出し、お客様と一緒に新たなビール文化を育むチャレンジに、ぜひご注目ください。

※ 詳細は「DRINX」ウェブサイトとサイト会員様への直接通知でご案内予定です。数量限定のため、限定数に達し次第、ご予約受付は終了いたします。予めご了承ください。

SPRING VALLEY BREWERYプロジェクト 全4シリーズ数量限定販売（9月下旬以降）



第1弾 「496」※

※ ご好評につき
完売しました。

7月 予約開始



第2弾 ピルスナー タイプ

8月下旬 予約開始



第3弾 フルーツエール タイプ

10月 予約開始（予定）



第4弾 ホワイトビール タイプ

11月 予約開始（予定）



2015年春 お披露目

お客様の声でビールが進化

機能系商品市場を 牽引する新商品

🔍 「SRPING VALLEY BREWERY」とは？

日本で最初に商業的に成功したビール醸造所の名称。この地を引き継いだのが、麒麟ビールの前身「ジャパンブルワリー」であることから、「SRPING VALLEY BREWERY」は、麒麟ビールにとって、新しいチャレンジ、パイオニア精神を象徴するブランド名です。

🔍 クラフトビールとは？

量産品とは異なる嗜好性・多様性をもち、味の違いや個性、作り手のこだわりが楽しめるビールの総称です。

オンライン、ブルワリー併設店舗で販売



◀ SPRING VALLEY
BREWERY TOKYO (仮称)
〈代官山〉



SPRING VALLEY ▶
BREWERY YOKOHAMA (仮称)
〈麒麟ビール横浜工場内〉



▲ オンラインショップ「DRINX」 <http://www.drinx.jp>

「淡麗プラチナダブル」発売

麒麟ビールは、16年連続売上No.1^{※1}を達成する発泡酒市場において、健康志向に対応した先進的な商品を開発し、機能系商品市場を牽引してきました。

新商品「淡麗プラチナダブル」は、世界初の当社独自の特許技術「プリン体カット製法^{※2}」を進化させ、プリン体99%カットからプリン体0.00^{※3}への低減を実現。「淡麗」ブランドへのさらなるお客様の支持拡大を目指します。

2014年
9月2日
発売

プリン体0.00

×
糖質0^{※4}

本格的な
うまさを両立



※1 1998～2013年発泡酒課税出荷数量による。

※2 特許番号:第3730935号。発泡酒中に含まれるプリン体を効果的に除去する。

※3 100ml当たりプリン体0.00mgを「プリン体0.00」と表示。

※4 栄養表示基準による。

要約連結財務諸表

四半期連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 (2014年6月30日現在)	前 期 (2013年12月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	691,275	814,788
現金及び預金	42,679	113,759
受取手形及び売掛金	334,777	396,113
商品及び製品	155,609	136,494
仕掛品	37,730	34,488
原材料及び貯蔵品	49,715	54,063
その他	74,264	83,729
貸倒引当金	△ 3,499	△ 3,860
固定資産	2,103,728	2,081,667
有形固定資産	791,267	764,378
無形固定資産	831,488	836,936
投資その他の資産	480,973	480,351
資産合計	2,795,003	2,896,456

四半期連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期累計 (2014年1月 1 日から 2014年6月30日まで)	前第2四半期累計 (2013年1月 1 日から 2013年6月30日まで)
売上高	1,056,276	1,096,214
売上原価	604,555	629,908
売上総利益	451,721	466,305
販売費及び一般管理費	401,469	405,888
営業利益	50,251	60,416
営業外収益	9,927	8,767
営業外費用	15,071	13,470
経常利益	45,107	55,714
特別利益	1,645	63,487
特別損失	6,966	18,285
税金等調整前四半期純利益	39,786	100,915
法人税等	18,812	30,780
少数株主損益調整前四半期純利益	20,974	70,135
少数株主利益	6,930	10,467
四半期純利益	14,043	59,668

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期 (2014年6月30日現在)	前 期 (2013年12月31日現在)
(負債の部)		
流動負債	598,080	659,898
固定負債	887,772	935,831
負債合計	1,485,852	1,595,729
(純資産の部)		
株主資本	957,632	980,071
資本金	102,045	102,045
資本剰余金	81,417	81,417
利益剰余金	847,826	850,511
自己株式	△ 73,657	△ 53,903
その他の包括利益累計額	125,248	95,790
その他有価証券評価差額金	40,615	44,506
繰延ヘッジ損益	△ 314	128
土地再評価差額金	△ 2,581	△ 2,581
為替換算調整勘定	87,528	53,737
新株予約権	301	306
少数株主持分	225,969	224,558
純資産合計	1,309,151	1,300,726
負債純資産合計	2,795,003	2,896,456

四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当第2四半期累計 (2014年1月 1 日から 2014年6月30日まで)	前第2四半期累計 (2013年1月 1 日から 2013年6月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	37,211	64,055
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 64,770	80,058
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 43,282	△ 187,160
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 272	7,139
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△ 71,113	△ 35,905
現金及び現金同等物の期首残高	105,472	78,041
現金及び現金同等物の四半期末残高	34,358	42,135

株主優待制度のご案内

当社は、1年に一度、株主様ご優待制度を実施しております。今年4月1日より単元株式数を1,000株から100株に変更したことに伴い、100株以上保有する株主様にもご優待を実施することとしましたので、ご案内いたします。

Q1 株主優待制度の概要を教えてください。

A1 毎年12月31日現在、当社株式を単元株数(100株)以上保有する株主様に、ご優待品をお届けいたします。
100株以上1,000株未満を保有する株主様には1,000円相当、1,000株以上を保有する株主様には3,000円相当のご優待品をご用意いたします。
いくつかのご優待品からご希望の品をお選びいただくことができます。

Q2 優待品は何ですか。

A2 キリングループの商品またはキリングループが行っている社会貢献活動に関連する品を複数ご用意し、お選びいただけるようにいたします。
キリンビール社のビール類その他アルコール飲料、キリンビバレッジ社の清涼飲料、キリンシティお食事券、飲酒運転根絶募金のほか、1,000株以上保有する株主様には、メルシャン社のワイン、サッカー日本代表関連優待品などもご用意する予定です。

Q3 優待品は毎年変わるのでしょうか。

A3 キリンビール社商品、キリンビバレッジ社商品など、お選びいただく選択肢はあまり変えないようにしております。
但し、詰め合わせの中身については、毎年、吟味して決定しております。3月上旬にお届けするご案内チラシでご確認ください。
(注) 1,000株以上を保有する株主様を対象に本年実施した際のご優待品をご覧になる場合は、以下のホームページをご覧ください。
<http://www.kirinholdings.co.jp/irinfo/stock/yuutai.html>

Q4 申込み方法を教えてください。

A4 対象の株主様には、3月上旬に、株主総会招集ご通知とともに、株主優待のご案内と申込はがきをお送りします。ご案内チラシをご覧ください、ご希望の品を申込はがきに記入のうえ、事務局へお送りください。

Q5 優待品はいつでも、どこに届くのですか。

A5 株主名簿にご登録いただいているご住所へお届けいたします。お申込みいただいた株主様には、4月～6月にお届けいたしますが、優待品によりお届け時期は異なりますので、予めご了承ください。

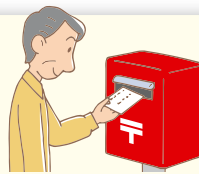
ご優待品お届けの流れ

3月上旬



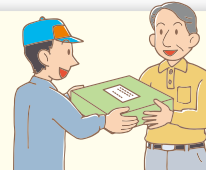
①株主総会招集ご通知とともに、ご案内と申込はがきが届きます。

4月末まで※



②ご希望の優待品の番号を記入し、申込はがきをポストへ投函してください。はがきの半券は保管ください。

4月～6月



③株主名簿に登録されているご住所へお届けします。

ご質問等は、ご案内チラシ記載の番号にお電話ください。事務局がご対応いたします。



※ 期限までにお申込みがない場合には、当社にて選んだご優待品をお届けします。

会社概要

商号	麒麟ホールディングス株式会社
設立	1907年(明治40年)2月23日 ※ 2007年7月1日純粋持株会社化に伴い、 「麒麟麦酒株式会社」より商号変更
資本金	102,045,793,357円
従業員数	67人 (麒麟ホールディングス連結従業員数:40,196人)
本社所在地	〒164-0001 東京都中野区中野四丁目10番2号 中野セントラルパークサウス
売上高	2,254,585百万円 (2013年12月期麒麟ホールディングス連結業績)
主な事業	グループの経営戦略策定及び経営管理

役員一覧

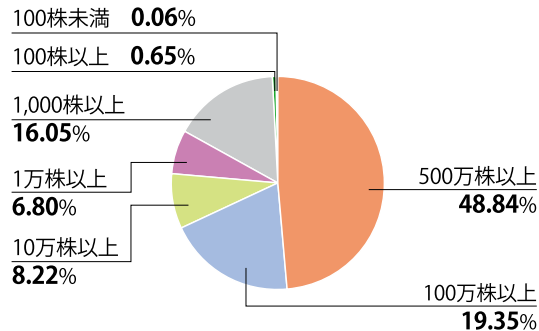
代表取締役社長	三宅 占二	常勤監査役	鈴庄 一喜
代表取締役常務取締役	小林 弘武	常勤監査役	鈴木 政士
代表取締役常務取締役	中島 肇	社外監査役	大根田 伸行
常務取締役	西村 慶介	社外監査役	岩田 喜美枝
取締役	伊藤 彰浩	社外監査役	橋本 副孝
社外取締役	三木 繁光		
社外取締役	有馬 利男		

グループ会社一覧

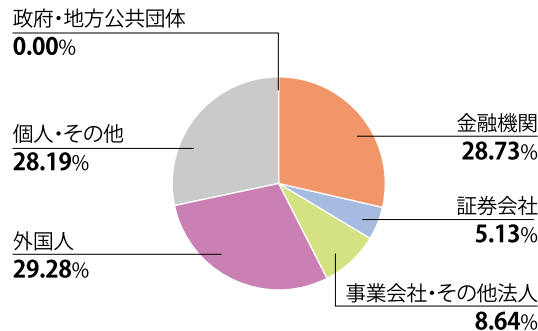


※1 機能分担会社 ※2 持分法適用会社

所有株数別分布状況



所有者別分布状況



発行済株式総数 965,000,000株

株主数 131,067名

大株主 (千株未満、小数点以下第3位を切り捨て)

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	44,745	4.63
明治安田生命保険相互会社	32,996	3.41
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	32,169	3.33
株式会社三菱東京UFJ銀行	19,251	1.99
野村證券株式会社	16,370	1.69
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	16,214	1.68
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505041	14,638	1.51
ノーザン トラスト カンパニー (エイブイエフシー) アカウント ノン トリーティー	13,562	1.40
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505225	13,445	1.39
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	9,981	1.03

※上記所有株式のほかに、当社は自己株式を51,689千株所有しております。

株式に関するお手続きについて

1. 証券会社等の口座に記録された株式

証券会社等の口座に記録された株式の各種お手続きにつきましては、一部を除き原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問合せください。

お手続き、ご照会の内容	お問合せ先	
● 郵送物の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (平日9:00-17:00)
● 上記以外のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

2. 特別口座に記録された株式

特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、下記連絡先までお問合せください。

お手続き、ご照会の内容	お問合せ先	
● 特別口座から一般口座への振替請求 ● 単元未満株式の買取・買増請求 ● 住所・氏名等のご変更 ● 特別口座の残高照会 ● 配当金の受領方法の指定※	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (平日9:00-17:00) 手続き用紙のご請求方法 音声自動応答電話によるご請求 ☎ 0120-244-479 インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufg.jp/daikou/
● 郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ● 支払期間経過後の配当金に関するご照会 ● 株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	

※ 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

株主メモ

事業年度	1月1日から12月31日まで
株主確定日	定時株主総会・期末配当金12月31日 中間配当金6月30日
定時株主総会	3月下旬開催
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ☎ 0120-232-711 (平日9:00-17:00)
公告の方法	電子公告により行います。但し、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL http://www.kirinholdings.co.jp/
証券コード	2503



この報告書は、「FSC®認証紙」および石油系溶剤の代わりに植物油を用いた「植物油インク」を使用し、有害廃液を排出しない「水なし印刷方式」で印刷しています。本冊子の印刷・製本工程で使用した電力は、日本自然エネルギー株式会社が発電したグリーン電力（風力）でまかっています。